

# 市民環境大学OB会 ニュースレター



第8号 2016年5月19日 発行

浅川の桜とひよどり



2月18日の定例OB会において会員の原田さんからTV番組“地球への脅威 天体衝突”の紹介がありました。

NASAが2004年に発表した小惑星「アポフィス」の地球衝突の可能性は当初確率が1/37という恐ろしい数字で、世界を震撼させた。その後の再観測で1/250000まで低下したものの軌道予測が非常に困難であり、近年の例では直径600mの巨大惑星「ハロウイン」の接近が判明したのは何と20日前で、地球から僅か50万kmを通過した。

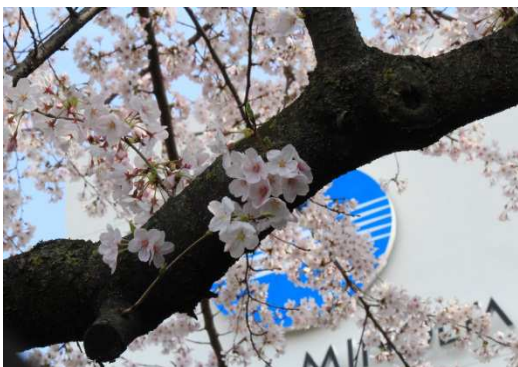
もし巨大隕石が衝突すればその影響は計り知れなく、空中爆発での破壊や海中落下での酸性雨、プランクトンの死滅による生物の絶滅など人類滅亡にもつながるものである。地球外にまで目を向けると小さい地球で人間同士争っている場合ではないというのが原田さんの感想でした。

3月17日の定例OB会において会員の佐山さんから“東京湾再生官民連携フォーラム施設見学会”の参加報告がありました。かつて夢の島という名のごみの集積島が“海の森”として再生されつつあるところです。

開催場所:東京湾中央防波堤内側埋立地/海の森プロジェクトおよび東京都大田区昭和島/森が崎水再生センター  
今回の報告は海の森プロジェクトのみ: 現地説明 東京都港湾局 タカトウ氏

- ・東京都区部から出たごみの埋め立てを行い、現在およそ800haが港の公園として整備が進められている。
- ・見学した公園は整備中で広さ88ha、高さ30m、植栽基盤や表土を足すと高い所で標高42mとのこと。
- ・市民より植樹希望者を募り、苗木は都内近隣公園のドングリなどで育てたものや近郊海岸沿いの植物を植樹。
- ・一般へのオープンは東京オリンピック(2020年)以降となる。

公園整備についてNPOとの連携、仕組みでは、東京都はNPOに対し、堆肥の作成場所を無償提供し、NPOは都内の公園などから出た伐採した枝や落葉などのごみ処理、堆肥つくりを有償で請け負い、出来た堆肥は海の森つくり公園へ無償で提供する形をとっている。



お知らせ 小倉先生の連続エッセイ スタート!!

3月17日の定例OB会において小倉先生より今度「みずとみどり研究会」発行の機関紙“水と緑と”第80号から4回にわたって連続エッセイを開始することのご案内があり、当日はエッセイその1の紹介がありました。

エッセイ その1のテーマは“東京湾との出会いと関わり”で、先生が東京湾についての調査研究を行うことになったきっかけは65年前の小学生時代の稲毛海岸での潮干狩りとのこと。当時の潮干狩りの様子と共に集合写真の隅に映っている鳥居からそれが干潟に立つ稲毛浅間神社であり、1950年と2009年の地形図の比較から埋立てで干潟がなくなった後の神社のゆくの解明など先生ならではの視点での非常に面白いエッセイです。

「今月の写真」 第8号では丁度桜の季節でもあり、日野市内の有名な桜の名所で撮影したものを載せてみました。上2枚は浅川沿いの桜並木、中段は地名にもなっているコニカの桜、下段は旭ヶ丘グリーンベルトです。

OB会 輪読報告 3月、4月のOB会輪読は以下の項目でした。

陸水学入門 川と湖を見る・知る・探る 編集：日本陸水学会  
発行：地人書館

3月 Topics11 河川整備に住民の声を反映させるために

4月 Topics12 バイカル湖の湖底堆積層が物語る1000万年以上の環境変動

Topics13 陸水生態系における生物多様性の危機と再生の理念



発行：市民環境大学OB会